

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科昼間部		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	器質性構音障害		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年生		学期及び曜時限	後期 水金2, 3, 4限	教室名	4校舎301教室
担 当 教 員	前川 圭子	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
器質的異常が正常な発話におよぼす影響について理解し、器質性構音障害および関連障害の評価・診断・治療に関する知識・技能・態度を身につける。						
《成績評価の方法と基準》						
学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
藤田郁代監修 城本修・原由紀編集 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学第3版 医学書院						
《授業外における学習方法》						
指定した教科書を事前に読んでおくこと						
《履修に当たっての留意点》						
口蓋裂や口腔腫瘍のある人たちの状況をよく理解し、全人的治療を目指しましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性構音障害をもたらす原因疾患、関連障害について理解し説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと	
		各コマにおける授業予定	口蓋裂など先天性の疾患と、口腔腫瘍など後天性疾患について説明する			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	鼻咽腔閉鎖機能不全に関連する疾患を知り説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと	
		各コマにおける授業予定	口蓋裂、粘膜下口蓋裂、先天性鼻咽腔閉鎖機能不全症や、口蓋裂を含む症候群について説明する			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	発声発語器官の形態と機能の異常を理解し、模擬的に評価できる	DVD口蓋裂言語検査	教科書該当箇所を読むこと	
		各コマにおける授業予定	声道(口腔・鼻腔・咽頭・鼻咽腔)の構造と機能の評価について説明する			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	声と共鳴、構音の特徴を理解し、模擬的に評価できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと	
		各コマにおける授業予定	口蓋裂に伴う発声・共鳴・構音の異常について説明する			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	特異な構音操作の聴覚的特徴を理解し説明できる	CD口蓋裂の構音障害	教科書該当箇所を読むこと	
		各コマにおける授業予定	聴覚的評価演習			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂に対する外科的・歯科補綴的・言語的治療の適応について理解し説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	外科的治療の種類と時期、歯科補綴的装置の種類と適応・言語治療の役割について説明する		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	構音訓練の方法を理解し、模擬的に実施できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	構音訓練演習		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	口蓋裂に伴うその他の問題を理解し説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	授乳、発達、聴覚、心理社会的問題など、年齢に伴う問題点の変化、介入について説明する		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	口腔がん術後の構音障害やその他の問題を理解し説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	口腔腫瘍の摘出術・再建手術が構音や摂食嚥下機能におよぼす影響について説明する		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	術後の構音障害の特徴と検査・評価について理解し説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	切除部位と構音障害の特徴、評価方法について説明する		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	100音節明瞭度検査を模擬的に実施できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	評価演習		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	術後の構音訓練について理解し、模擬的に実施できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	介入の時期、目標音の選択、訓練方法について説明する		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	発話補助手段の種類と適用基準について理解し説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	PAP、PLP、その他について説明する		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	器質性構音障害のある人に対するチームアプローチの必要性を理解し説明できる	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	治療にかかわる専門職と連携の方法について説明する		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	国家試験過去問題を解ける	教科書 配布資料	教科書該当箇所を読むこと
		各コマにおける授業予定	1～14回のまとめ、国家試験過去問		